

### 編輯室の内外

陽春三月となつても遠慮なしに雪は降る市内道路は依然として慶長見開録の言つてゐる状態だ、いつになつたら完全な道路に爲るであらうかと、東京土木局長牧博士の健在を疑ふ、なぞと悪口を言つてゐると、九百萬圓の第二期道路改良事業案が、市會を通過したと言ふ話、遠は牧博士だと感心する連中もあつた、後で調べて見ると、昭和二年度中に計畫することに決定したゞけであつた、ナインダ、一同口アングリ、餘り早く賞め過ぎるものではない。

財政緊縮と言つても、矢張り地方豫算には餘裕があると見へ、編輯室を訪ふ地方廳の人が頗る多い、及之本省の連中は常に似合はず何れも在廳、御上りさんの便利を圖る爲めかと聞いて見ると、ソーちや無い、旅費豫算を皆使ひ果たして、足を縛られ新年度の開始を待つてゐるのであつた、世の

中はうまく出来てゐるものだ、編輯室に御上りさん接待費の豫算を取つて置かなかつた爲に、御茶一杯で失敬した茲に謹んで謝しておく。

御隣りの道路課では、怒つたり笑つたりハケ間しい騒ぎ、聞いてゐると、怒つたのは折角起案した、自動車道法案が閣議に提出されたきり行衛不明と爲つたとき、笑つたのは土地收用法の改正案が議會を通過したとき、前者は其の處分に合議せと言ふ鐵道省の横槍で内務省が自發的に提案を撤回したのである、合議する位なら現行制度で足ると言ふのである、提案見合せは遺憾だが、共同主管の悪例を排斥したのは幸であつた、確かり頼む。

本誌を地方道路改良の爲に開放せよと言ふ要求が頻である、都會の道路も道路だから其の全部を農村道路の爲に開放することは出来ないが、其の方面の事項も成るべく澤山に蒐集する積りだ、しかし都市と農村、

事務と技術、と言ふやうに各種の方面に亘つてゐるので、本誌一冊だけで御希望全部を容るゝ譯に行かない、セメテ一年位本誌を通觀された上で御批評を願ひ度いものである、夫れにつけ讀者各位に御願することがある、夫れは地方道路に關する記事の御投稿を願ひ度いことである、一地方の善政が他の地方に波及することは、結局全國の利益、全國民の利益と爲るからである(た)

本號定價 五拾錢  
一ヶ年分 金六圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内  
發行所 社團 道路 改良 會  
發行兼 編輯者 上 山 陸 造  
東京市小石川區諏訪町五十六  
印刷所 常 磐 印 刷 所  
印刷者 堀 江 關 武